

I 調査の概要

調査のあらまし

1. 調査目的

県民の意識を把握し、今後の県政推進のための基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 喜び・生きがい、社会変化の認識 …………… 2問
- (2) 県の広聴広報活動 …………… 6問
- (3) 竹島問題 …………… 3問
- (4) 日常生活 …………… 23問

3. 調査設計

【調査地域】 島根県全域

【調査対象】 島根県内の市町村に居住する満18歳以上の方

【標本数】 2,000

【抽出方法】 層化無作為抽出法

【調査方法】 郵送配付、郵送回収またはインターネットによる回答

【調査時期】 令和7年7月

【調査機関】 株式会社東京商工リサーチ 松江支店

4. 回収結果

- (1) 回収数 1,306
- (2) 回収率 65.3%

[郵送回答：845 (64.7%)、インターネット回答：461 (35.3%)]

5. 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢を要約している場合がある。
- (4) 本調査は、「標本抽出による調査」であるため、全数調査を行った場合との間には、「標本誤差」が生じる。「標本誤差」については、7ページに記載した。
- (5) 「Ⅱ 調査の結果」は、全体の傾向についてふれているほか属性による比較を行っている。属性による比較は、「地域別」、「性別」、「年齢別」についてふれている。なお、「性別」のグラフ掲載及び分析について、「その他」はサンプル数が少ないため、ここでは掲載していない。また、「年齢別」のグラフの掲載及び分析について、18～19歳はサンプル数が少ないため、20歳代と合わせて18～29歳で比較している。

調査対象の特性

区分			実数(n)	比率(%)
総数			1,306	
地域	松江地区		452	34.6
	雲南地区		106	8.1
	出雲地区		343	26.3
	大田地区		89	6.8
	浜田地区		151	11.6
	益田地区		112	8.6
	隠岐地区		31	2.4
	無回答		22	1.7
市郡	松江市		379	29.0
	その他の市		787	60.3
	郡部		118	9.0
	無回答		22	1.7
過疎地	過疎地		603	46.2
	非過疎地		681	52.1
	無回答		22	1.7
性別	男性		626	47.9
	女性		664	50.8
	その他		4	0.3
	無回答		12	0.9
年齢	18～29歳（計）		71	5.4
		18～19歳	11	0.8
		20～29歳	60	4.6
	30～39歳		122	9.3
	40～49歳		185	14.2
	50～59歳		274	21.0
	60～69歳		281	21.5
	70歳以上		361	27.6
	無回答		12	0.9
職業	自営・家族従業者	農・林・漁業	75	5.7
		商・工・サービス業	138	10.6
		自由業	41	3.1
	被傭者	管理職	74	5.7
		事務職・専門技術職	339	26.0
		技能・労務職	142	10.9
	学生		19	1.5
	無職		416	31.9
	無回答		62	4.7
ライフステージ	独身期		65	5.0
	家族形成期		50	3.8
	家族成長前期		116	8.9
	家族成長後期		73	5.6
	家族成熟期		143	10.9
	高齢期Ⅰ		74	5.7
	高齢期Ⅱ		276	21.1
	その他		497	38.1
	無回答		12	0.9

区分		実数(n)	比率(%)
総数		1,306	
未・既婚	未婚	235	18.0
	既婚（配偶者あり）	856	65.5
	既婚（離死別）	185	14.2
	無回答	30	2.3
共働きの有無 (n=856)	している	490	57.2
	していない	351	41.0
	無回答	15	1.8
子どもの有無 (n=1041)	いない	95	9.1
	いる（計）	872	83.8
	未就学児	46	4.4
	小・中学生	118	11.3
	高校・大学生	79	7.6
	社会人	603	57.9
	その他	26	2.5
無回答		74	7.1
家族形態	ひとり暮らし	166	12.7
	夫婦だけ	345	26.4
	2世代	543	41.6
	3世代	174	13.3
	その他	46	3.5
	無回答	32	2.5
同居高齢者	いる	753	57.7
	いない	495	37.9
	無回答	58	4.4

【過疎地・非過疎地について】

調査対象となった19市町村について、過疎地・非過疎地の区分は次のとおりである。

区分	地域
過疎地	松江市のうち旧美保関町、旧島根町、旧鹿島町の区域 浜田市 ※ 出雲市のうち旧佐田町、旧多伎町の区域 益田市 大田市 安来市 江津市 雲南市 奥出雲町 飯南町 川本町 美郷町 邑南町 津和野町 吉賀町 海士町 西ノ島町 知夫村 隠岐の島町
非過疎地	松江市（旧美保関町、旧島根町、旧鹿島町の区域を除く） 出雲市（旧多伎町、旧佐田町の区域を除く）

※市町村全域が過疎地域とみなされる市町村（過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第42条）

【同居高齢者について】

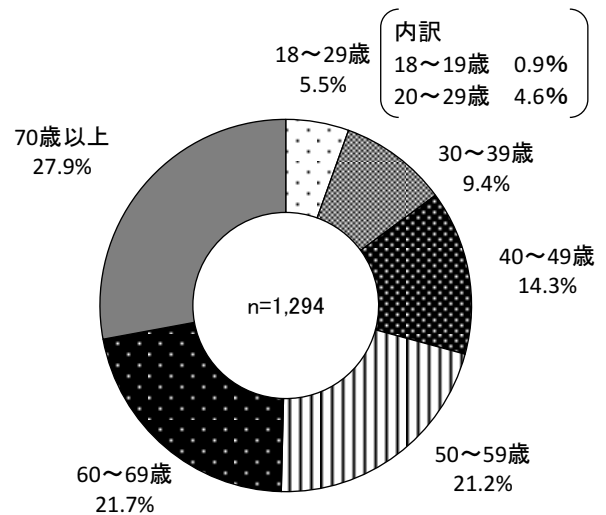
同居高齢者とは、満65歳以上の者（本人を含む）を示す。

【ライフステージについて】

本調査の回答者の年齢構成は右図のとおりであるが、県民の意識は家族構成、特に子どもの成長段階によって異なると考えられる。そこで、第1子の成長段階を分類の中心とし、ライフステージとして8つの分類を設定した。

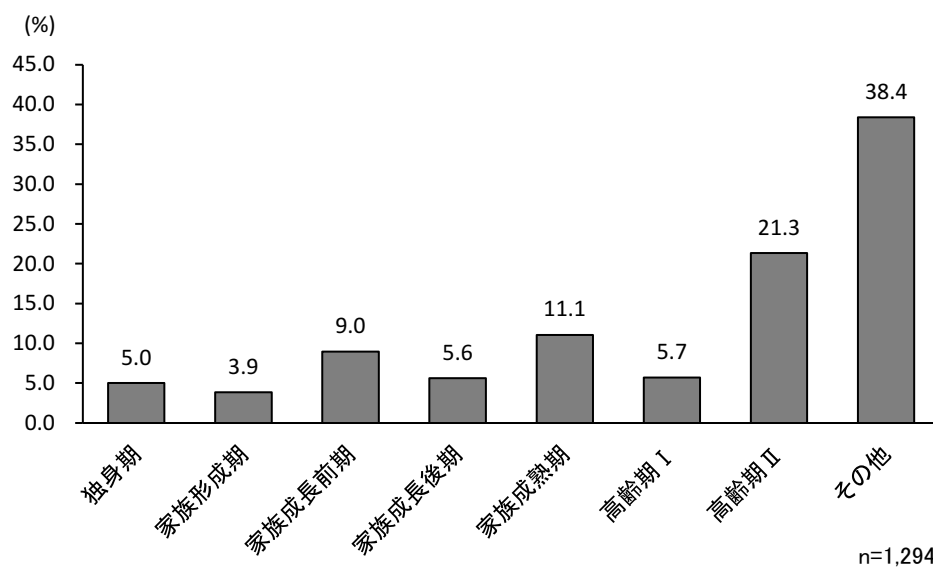
（無回答を除いた集計 n=1,294）

回答者年齢構成



- ① 独身期：40歳未満の未婚かつ有職者
- ② 家族形成期：40歳未満で、夫婦のみあるいは第1子が小学校入学前
- ③ 家族成長前期：60歳未満で、第1子が小・中学生
- ④ 家族成長後期：60歳未満で、第1子が高校・大学（院）生
- ⑤ 家族成熟期：60歳未満で、第1子が教育修了
- ⑥ 高齢期Ⅰ：60歳以上で、子ども夫婦と同居
- ⑦ 高齢期Ⅱ：60歳以上で、子ども夫婦と同居していない（未婚者は除く）
- ⑧ その他：上記①～⑦に該当しない者

ライフステージ別回答者割合



標本抽出方法

- (1) 母集団：島根県内の市町村に居住する満18歳以上の方
- (2) 標本数：2,000
- (3) 抽出方法：層化無作為抽出法

【層化】

- (1) 県内の市、または郡を単位として、次の7地区に分類した。
松江地区：松江市、安来市
雲南地区：雲南市、仁多郡、飯石郡
出雲地区：出雲市
大田地区：大田市、邑智郡
浜田地区：浜田市、江津市
益田地区：益田市、鹿足郡
隠岐地区：隠岐郡
- (2) 各地区については、さらに「松江市」、「その他の市」、「郡部」に分類して、それぞれを層とした。
(注) ここでいう市郡とは、令和7年4月1日現在の市町村の区域とした。

【標本数の配分】

地区別・市郡別の層における推定母集団数（令和6年度現在の18歳以上推計人口数）の大きさ及び各層の調査精度に配慮し、2,000の標本数を比例配分した。

【抽出】

- ①抽出に関しての各層内における市町村の配置順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ②対象者の抽出は、地区別・市郡別の層において比例配分した標本数に応じて抽出間隔を下式のとおり算定し、選挙人名簿を用いて、抽出した基点から等間隔抽出法によって抽出した。

$$\frac{\text{各層における推計人口合計}}{\text{各層で算出された標本数}} = \text{抽出間隔}$$

- ③以上の結果、各地区・市郡（層別）の標本数は下表のとおりである。

地区・市郡別標本数

地区	摘要	松江市	その他の市	郡部	計
松江地区	人口	167,717	29,846		197,563
	標本数	610	109		719
雲南地区	人口		28,857	13,163	42,020
	標本数		105	48	153
出雲地区	人口		143,091		143,091
	標本数		522		522
大田地区	人口		26,546	14,096	40,642
	標本数		97	52	149
浜田地区	人口		62,782		62,782
	標本数		229		229
益田地区	人口		36,501	10,377	46,878
	標本数		133	38	171
隠岐地区	人口			15,578	15,578
	標本数			57	57
計	人口	167,717	327,623	53,214	548,554
	標本数	610	1,195	195	2,000

※人口：令和6年度現在の18歳以上推計人口数

標本誤差について

層化無作為抽出法による標本誤差は、次の式で算出される。

$$\pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}}$$

N：母集団数
n：実回答数
P：回答比率

なお、Nはnよりもはるかに大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ とみなすことができる。

算出した標本誤差の範囲は次のとおりである。

標本誤差早見表（信頼度：95%）

区 分		実回答数 n	回答比率(%)				
			10 または 90	20 または 80	30 または 70	40 または 60	50
総 数		1,306	1.7	2.2	2.5	2.7	2.8
地 域	松江地区	452	2.8	3.8	4.3	4.6	4.7
	雲南地区	106	5.8	7.8	8.9	9.5	9.7
	出雲地区	343	3.2	4.3	4.9	5.3	5.4
	大田地区	89	6.4	8.5	9.7	10.4	10.6
	浜田地区	151	4.9	6.5	7.5	8.0	8.1
	益田地区	112	5.7	7.6	8.7	9.3	9.4
	隠岐地区	31	10.8	14.4	16.5	17.6	18.0
市 郡	松江市	379	3.1	4.1	4.7	5.0	5.1
	その他の市	787	2.1	2.9	3.3	3.5	3.6
	郡部	118	5.5	7.4	8.4	9.0	9.2
過疎地	過疎地	603	2.4	3.3	3.7	4.0	4.1
	非過疎地	681	2.3	3.1	3.5	3.8	3.8
性 別	男 性	626	2.4	3.2	3.7	3.9	4.0
	女 性	664	2.3	3.1	3.6	3.8	3.9

※表の見方

「標本誤差」とは、全体（母集団）から一部の標本を抽出して行う標本調査と、全体を対象に行う全数調査を比べた時に生じる調査結果上の誤差のことである。

例えば『松江地区（n＝452）の、ある設問中の選択肢（例：「そう思う」）の回答比率が10%であった場合、全数調査を行った場合の回答比率との誤差の範囲は±2.8%の範囲内（母集団で「そう思う」と回答する人の比率は7.2%～12.8%）である、と95%の確率で言える』とみることができる。

「信頼度95%」とは、100回同じ調査を行って、95回同じ結果（同じ誤差範囲）が出ると推定される、という意味である。